

【大仙市外小友地区：NPO法人南外さいかい市】 ～地域の暮らしを守るため～

地域
連携

生活
支援

<地区の概要>

大仙市の南西部に位置し、人口約1,900人、高齢化率が40%を超え、人口減少と高齢化が進む過疎地域となっている。地区内には、市役所の支所、公民館、コミュニティセンターといった行政機能や内科、歯科があるものの、平成24年3月に地区の小学校（南外西小学校）が廃校となり、平成25年には地区内唯一のスーパーが閉店するなど、賑わいが失われてきていた。

<地区の取組>

「地元からスーパーマーケットがなくなってしまった！」という事実に対して、行政が民間事業者に移動販売業務を委託する形で支援を行っていたが、平成29年度に開催した「南外創生を考える地域懇談会」において、地域の中に買い物できる場所が欲しいという声があがったのを切っ掛けとして取組がスタート。

何度となく話し合いを重ね、平成30年に市が建物を設置し、設備・備品は行政からの補助を受けて調達し、運営は地域住民自らが行う公設民営のミニスーパー（お互いさまスーパー）「南外さいかい市」を令和元年10月に開設している。

令和2年9月には、運営組織を任意団体からNPO法人化するとともに、国の補助事業を活用して、高齢者の見守りサービスも兼ねながら移動販売事業にも取り組んでいる。また、地域の空き家を改修して、新たな特産品開発にも取り組んでいる。



【南外さいかい市店舗内の様子】



【移動販売の様子】



【特産品開発の様子】

【今後の課題】

- ・事業継続に向けて、地元教育機関や民間企業等との連携を一層強くしながら、一般スーパーとの差別化を図る必要がある。
- ・スタッフは高齢者が中心であり、事業の継続に向けて、幅広い年齢層の地域住民からの協力を得られるようPR活動に努める。

大仙市外小友地区の取組の変遷

☆取組のポイント

地域住民が買い物困難という地域課題の解決に向けて立ち上がり、数年間にわたる話し合いを重ね、行政の協力を受けながら、令和元年度の店舗設立にこぎ着けた。

その後も、組織を任意団体からNPO法人化し、取組の拡大を図り、高齢者の見守りを兼ねた移動販売を開始するなど、地域のニーズに沿った形で店舗運営を行っている。

商品の仕入れには「コープあきた」からの協力、移動販売の実施にあたっては、市内民間事業所からの賛助広告をいただくなど、幅広く支援を受けながら、持続的な運営を目指している。

<H29>
「南外創生を考える
地域懇談会」を開催

<H30>
南外さいかい市検討
委員会設立

<H31>
南外さいかい市運営
協議会設立

<R2>
NPO法人南外さいかい市
立ち上げ

県内のお互
いさまスー
パーを視察



プレハブで
試験的な商
品販売実施

南外さいか
い市オーブ
ン



空き家を改
修して惣菜
製造・販売
を開始

社会福祉協
議会と連携
したサロンの
開催



お菓子など
特産品の開
発と販売

高齢者の見
守りを兼ね
た移動販売
の開始



活用した行政の支援制度
<南外さいかい市の設置>

- ・(市)ひとづくり・ものづくり応援事業
- ・(県)コミュニティビジネス普及拡大事業

<移動販売、特産品開発、サロン実施等>

- ・(国)過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業